

農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

1 いもち病

(1) 収穫期の巡回調査では、穂いもちの発生圃場率は23.9%（平年34.0%）で平年よりやや低く、発生程度は平年より低かった（図1）。

2 紋枯病（疑似紋枯病を含む）

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は76.7%（平年79.8%）で、平年並だった（図2）。

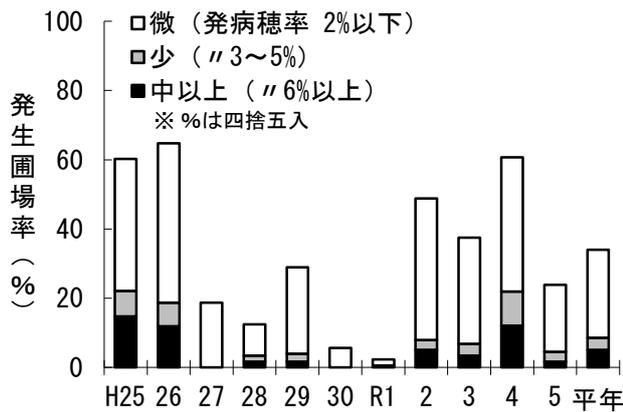


図1 穂いもちの発生圃場率の年次推移 (収穫期)

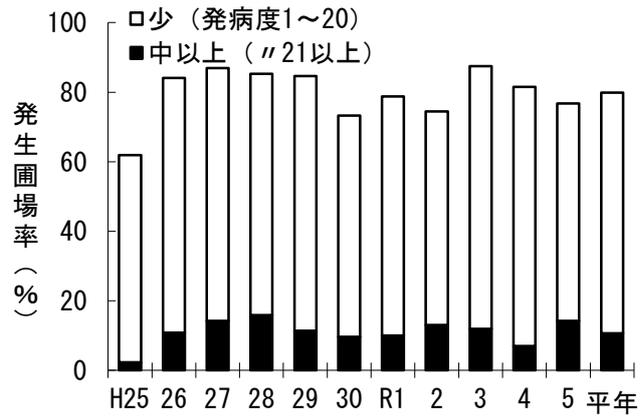


図2 紋枯病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

3 ごま葉枯病

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は15.3%（平年4.5%）で平年より高く（図3）、特に沿岸部で発生程度の高い圃場がみられた。

4 稲こうじ病

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は1.7%（平年4.2%）で、平年より低かった（図4）。

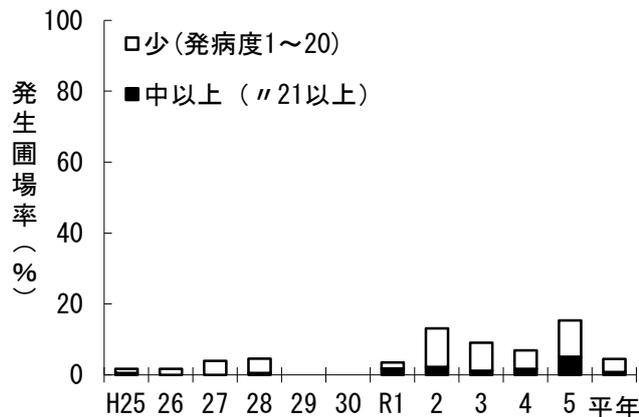


図3 ごま葉枯病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

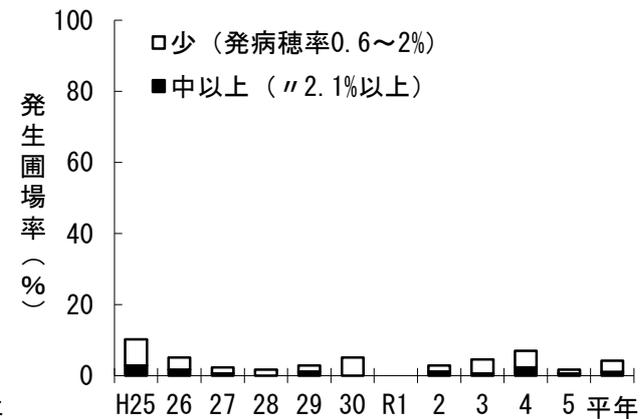


図4 稲こうじ病の発生圃場率の年次推移 (収穫期)

5 斑点米カメムシ類

- (1) 9月の基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、アカスジカスミカメの発生が第4半旬と第5半旬で平年より高かった（図5）。
- (2) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は37.5%（平年37.7%）で平年並だったが、1圃場当たりのすくい取り虫数は3.5頭（平年1.6頭）で、平年より高かった（図6）。

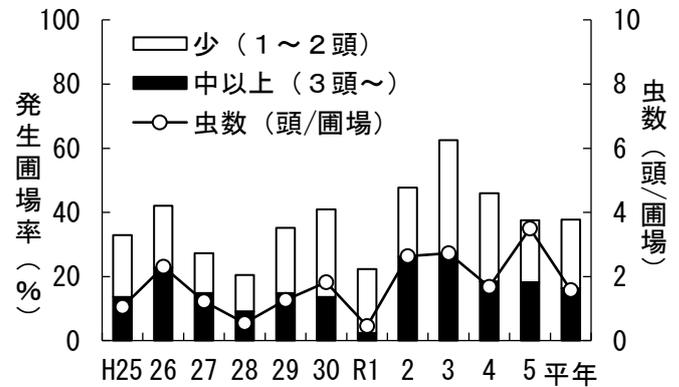
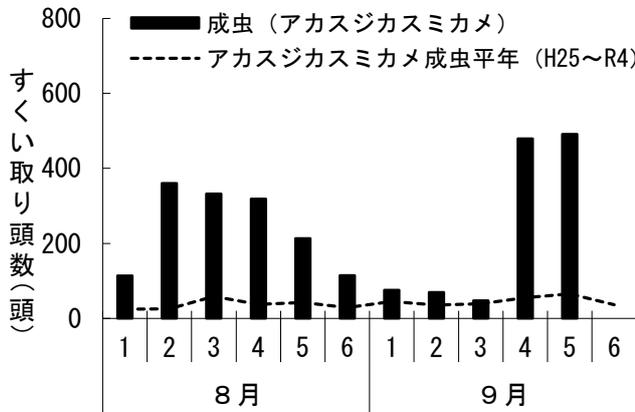


図5 基準圃場（北上市成田、メヒシバ、イタリアンライグラス）におけるアカスジカスミカメ成虫の時期別推移（すくい取り、往復20回振）

図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

6 ウンカ類

- (1) セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は20.5%（平年29.2%）で、平年よりやや低かった（図7左）。

- (2) ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は80.7%（平年68.3%）で、平年よりやや高かった（図7右）。

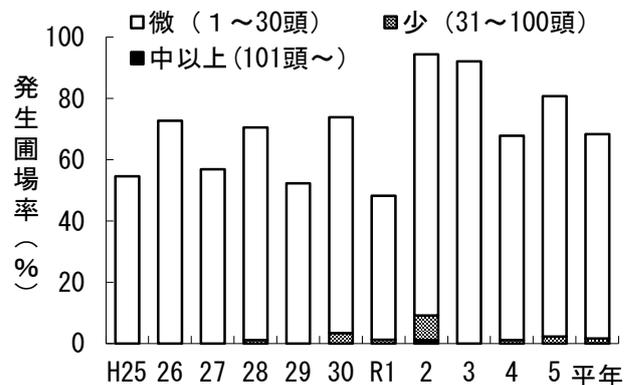
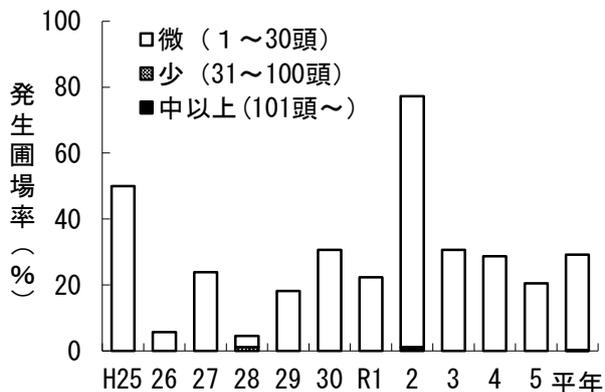


図7 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

7 ツマグロヨコバイ

- (1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、確認されなかった。

8 イネキモグリバエ (イネカラバエ)

(1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は12.5% (平年1.9%) で、平年より高かった (図8)。

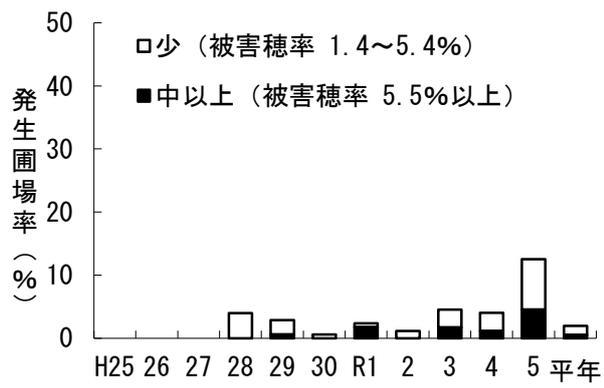


図8 イネキモグリバエの発生圃場率の年次推移 (収穫期)

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

1 斑点落葉病

(1) 9月後半の巡回調査の「ふじ」での発生園地率は67.7%（平年73.2%）、発生程度中以上の園地率は19.4%（平年24.2%）で、ともに平年並だった（図1）。

2 褐斑病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は64.5%（平年46.8%）で平年よりやや高く、発生程度中以上の園地率は45.2%（平年14.8%）で、平年より高かった（図2）。

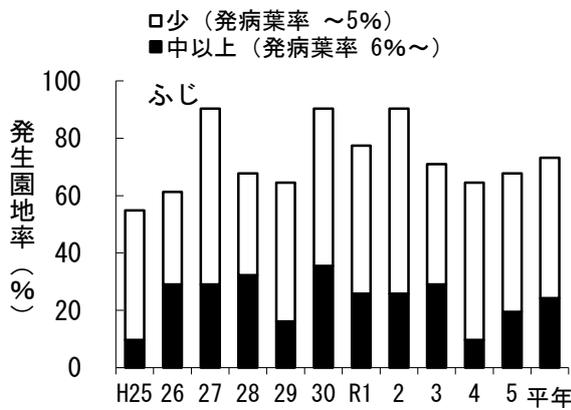


図1 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (ふじ、9月後半、徒長枝全葉)

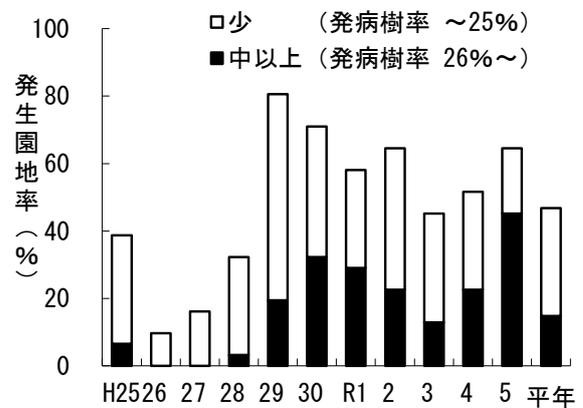


図2 褐斑病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

3 黒星病

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、徒長枝葉は19.4%（平年9.0%）で平年よりやや高く、果実は16.1%（平年6.1%）で、平年より高かった（図3）。

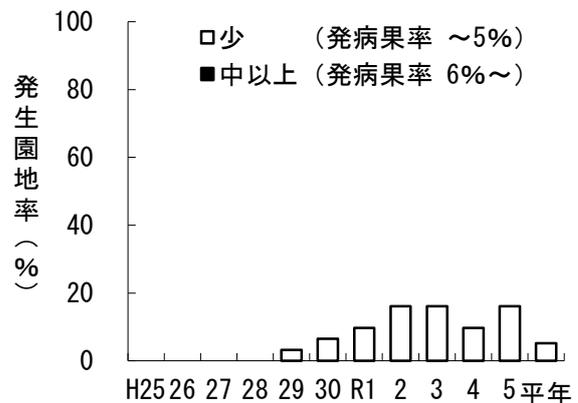
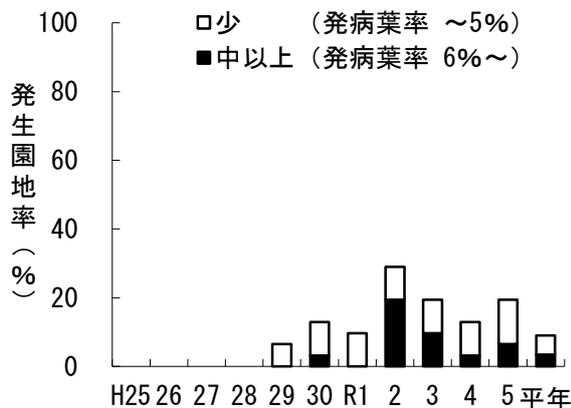


図3 黒星病の発生園地率の年次推移 (9月後半、左：徒長枝葉、右：果実)

4 果実病害

- (1) 輪紋病の9月後半の巡回調査での発生園地率は45.2% (平年10.7%) で、平年より高かった (図4)。
- (2) 炭疽病の9月後半の巡回調査での発生園地率は19.4% (平年7.4%) で、平年より高かった (図5)。
- (3) すず点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は12.9% (平年4.5%) で、平年よりやや高かった (図6)。
- (4) すず斑病の9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年0.3%) で、平年より高かった (図7)。
- (5) 黒点病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった (平年7.4%、図8)。

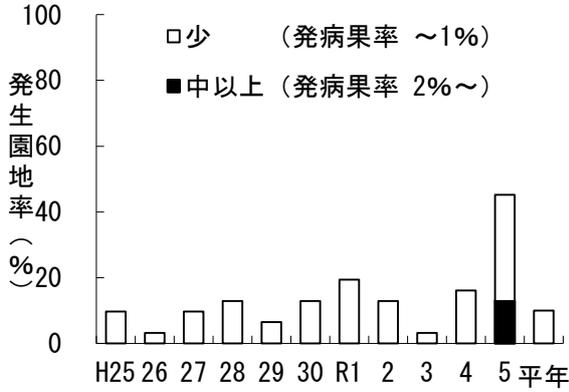


図4 輪紋病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

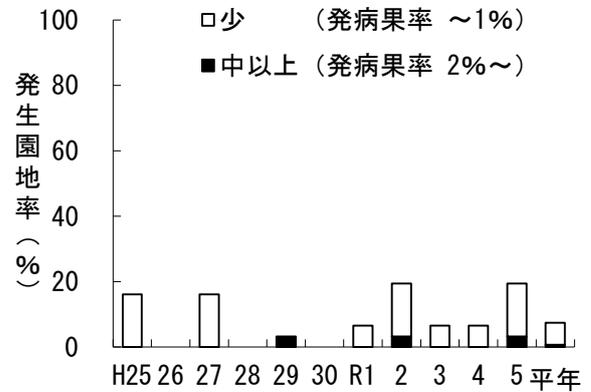


図5 炭疽病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

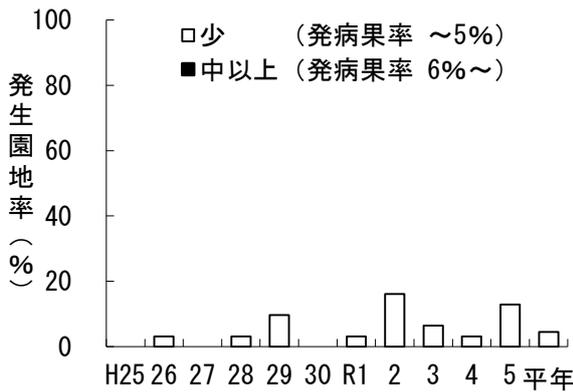


図6 すず点病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

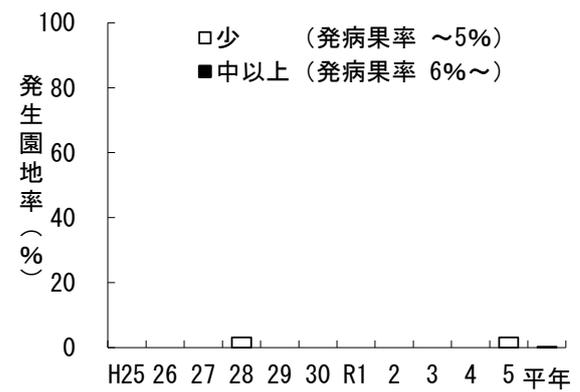


図7 すず斑病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

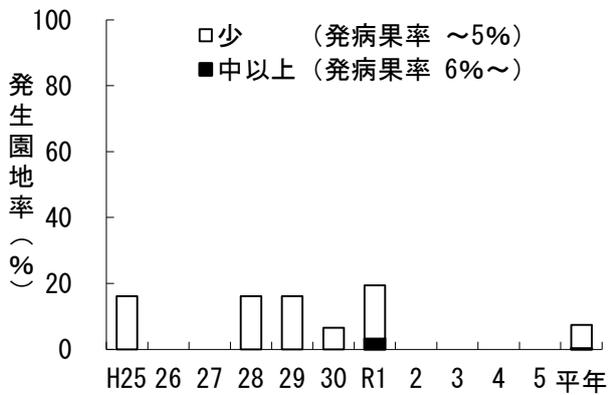


図8 黒点病の発生園地率の年次推移 (9月後半)

5 ハダニ類

(1) 9月後半の巡回調査でのリンゴハダニの発生園地率は3.2% (平年6.1%) で平年よりやや低く、ナミハダニは発生が確認されなかった (平年17.4%、図9)。

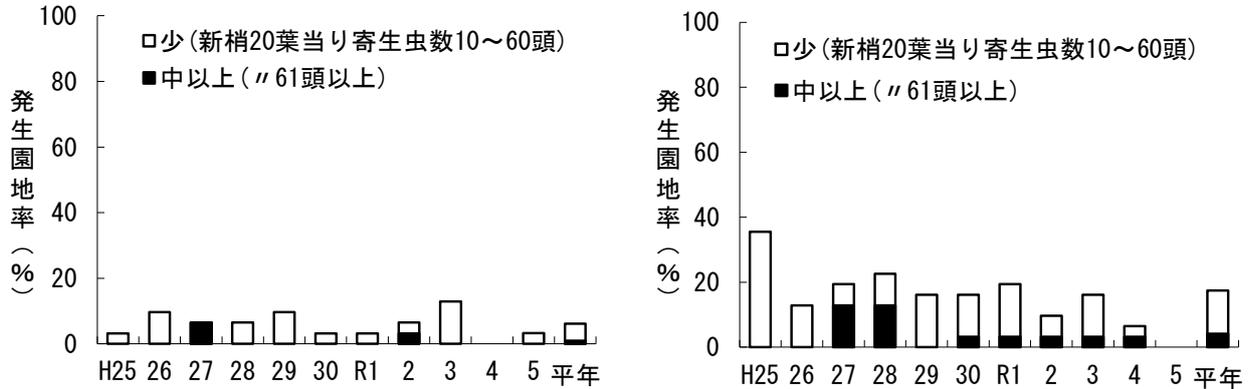


図9 ハダニ類の発生園地率の年次推移 (9月後半、左：リンゴハダニ、右：ナミハダニ)
(10 頭未満/新梢20葉 (10 樹) は発生無しの扱い)

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった (平年11.3%、図10)。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は19.4% (平年6.4%) で、平年より高かった (図11)。

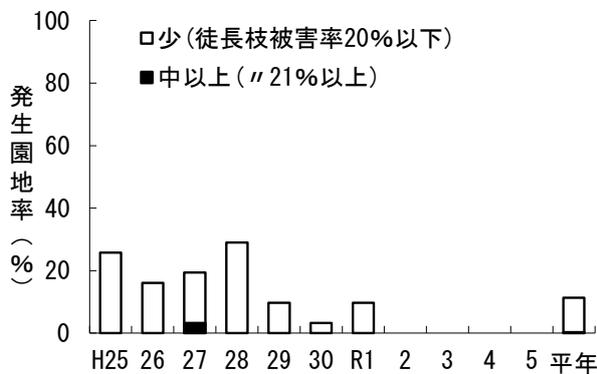


図10 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (9月後半)

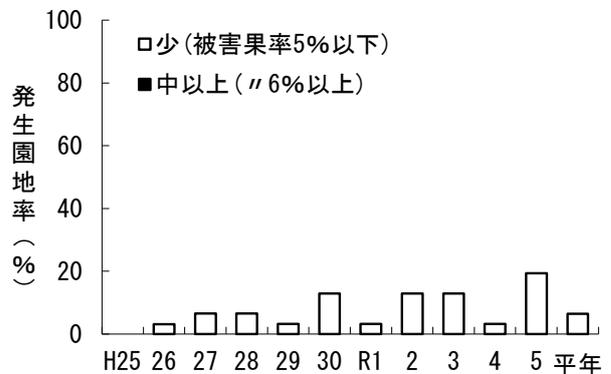


図11 シンクイムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生園地率は54.8%（平年16.1%）で、平年より高かった（図12）。
- (2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場（北上市成田：無防除）では、8月以降、平年並に推移した。現地圃地（盛岡市川目）の誘殺数は、7月第3半旬以降、平年より多く推移した（図13）。
- (3) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、北上市成田では、9月以降、誘殺されなかった。盛岡市川目では、9月第3半旬に平年より多く誘殺された（図14）。

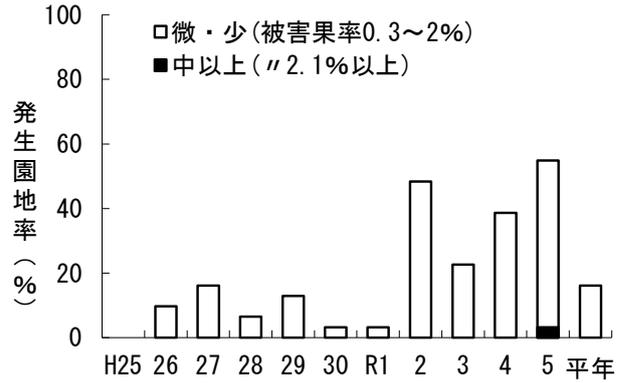


図12 果樹カメムシ類による被害果発生園地率の年次推移（9月後半）

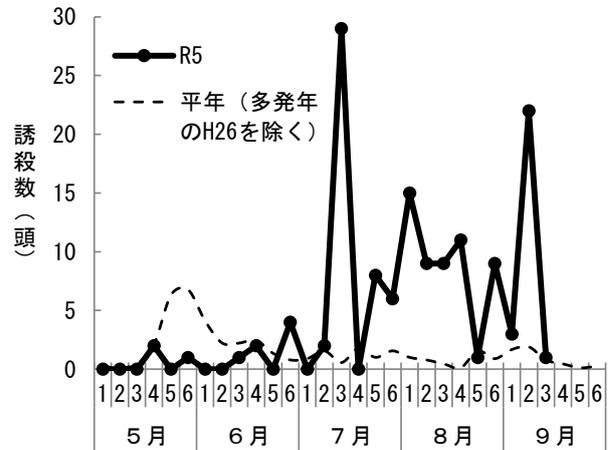
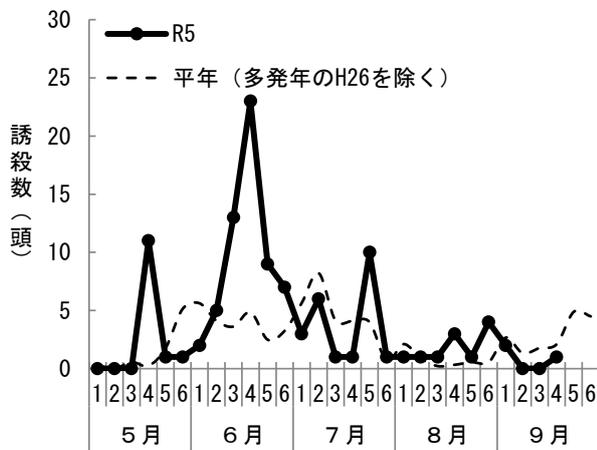


図13 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
（左：基準圃場（北上市成田）、右：盛岡市川目）

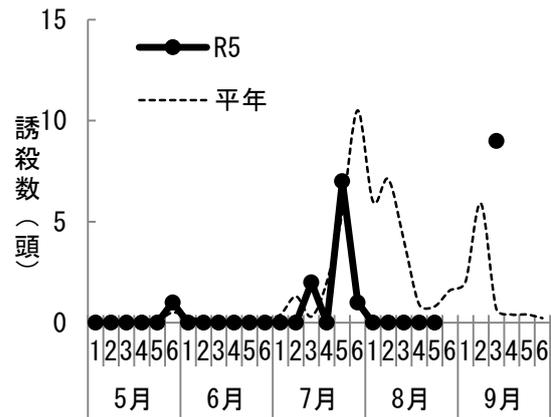
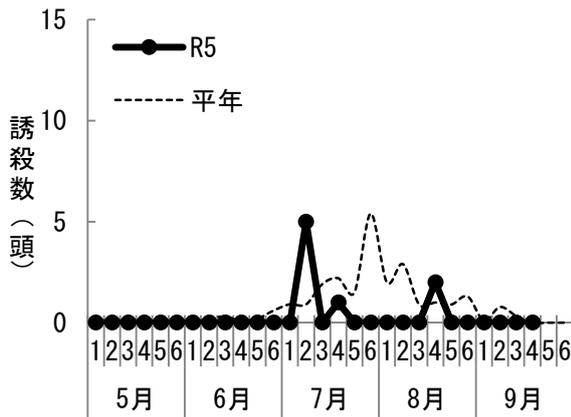


図14 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況（左：北上市成田、右：盛岡市川目）
※盛岡市川目：8月第6半旬から9月第2半旬までデータ欠損

農作物病害虫発生現況情報（9月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は69.2%（平年70.8%）で、平年並だった（図1）。

2 うどんこ病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は7.7%（平年53.9%）で、平年より低かった（図2）。

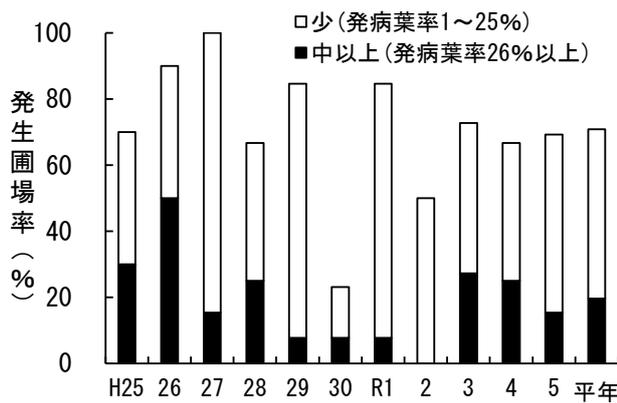


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

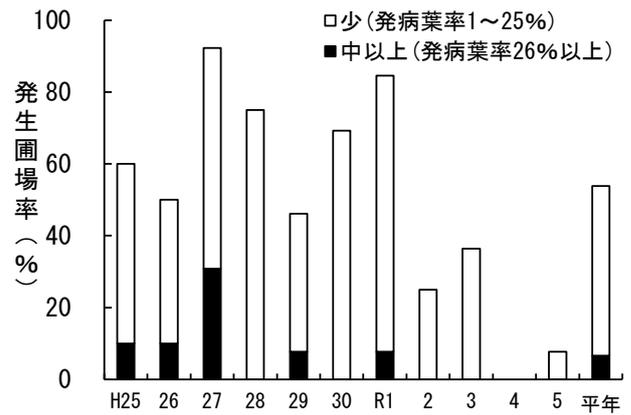


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

3 褐斑病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は84.6%（平年74.4%）で平年並だったが、発生程度の高い圃場率は69.2%（平年48.9%）で平年よりやや高かった（図3）。

4 炭疽病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は92.3%（平年86.5%）で平年よりやや高く、発生程度の高い圃場率は46.2%（平年16.6%）で平年より高かった（図4）。

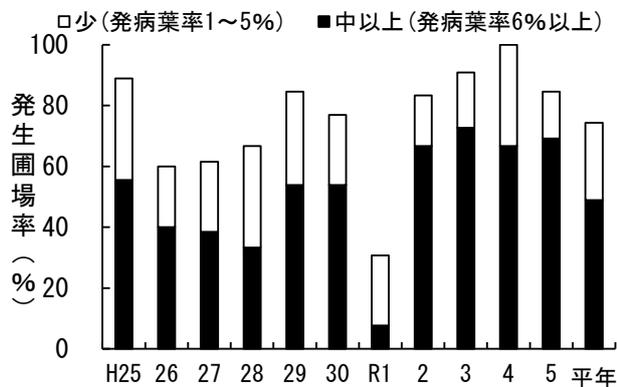


図3 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

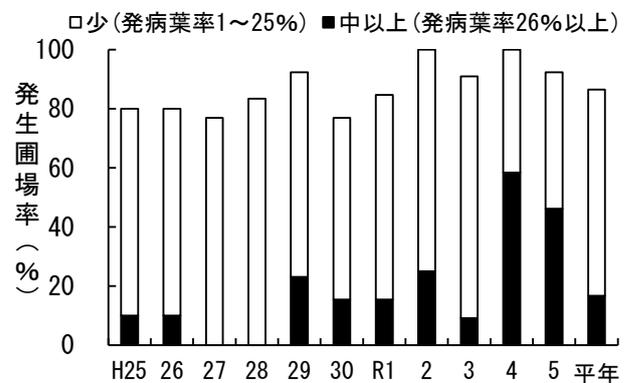


図4 炭疽病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

5 斑点細菌病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生は確認されなかった(平年23.5%、図5)。

6 黒星病

(1) 9月上旬の巡回調査での発生は確認されなかった(平年17.6%、図6)。

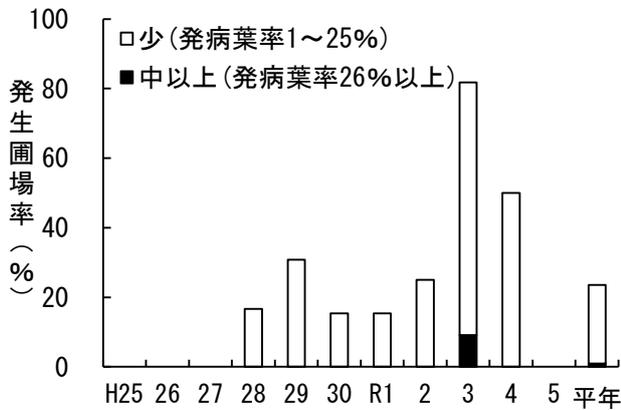


図5 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

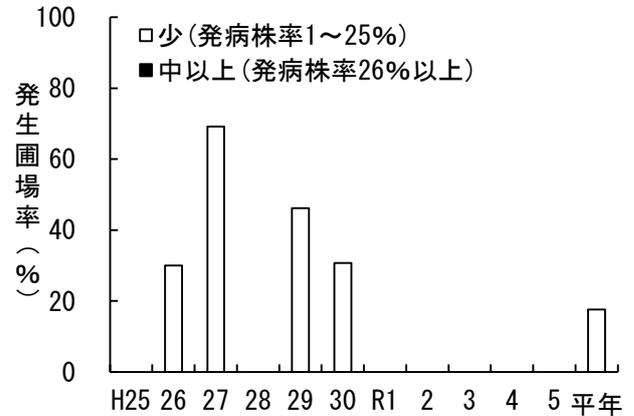


図6 黒星病の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

7 ワタアブラムシ

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は15.4%(平年16.7%)で、平年並だった(図7)。

8 ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ)

(1) 9月上旬の巡回調査での発生圃場率は76.9%(平年17.7%)で平年より高く、発生程度の高い圃場も複数確認された(図8)。

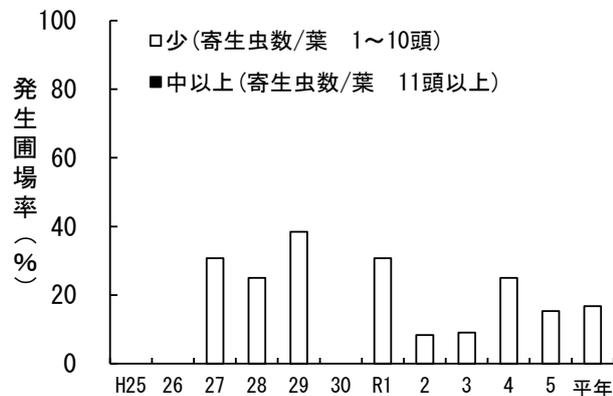


図7 アブラムシ類の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

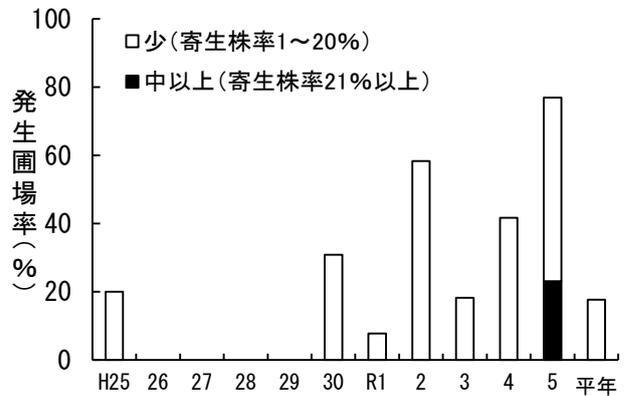


図8 ウリノメイガ (ワタヘリクロノメイガ) の発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

農作物病害虫発生現況情報（9月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図1）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年並に推移した（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より少なく推移した（図3）。
- (4) 9月中旬の巡回調査では、産卵は確認されず（平年5.5%、図4）、幼虫の発生圃場率は10.0%（平年32.3%）で平年より少なかった（図5）。

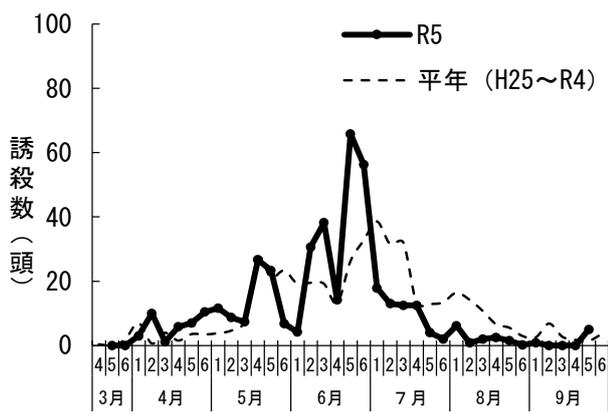


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

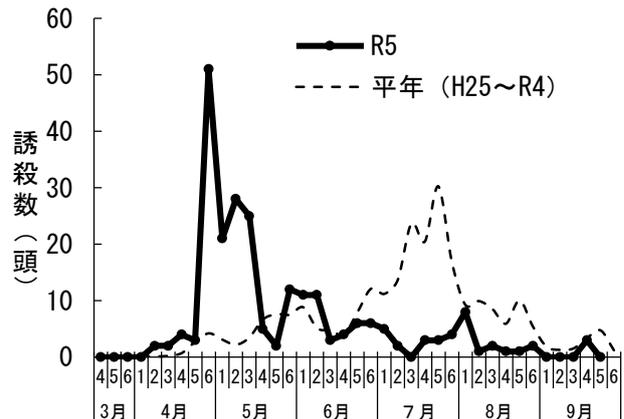


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

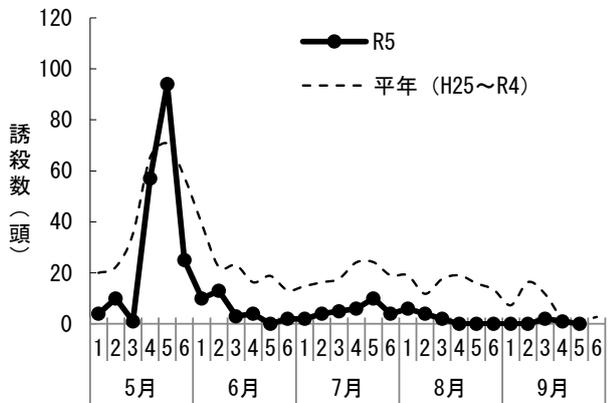


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

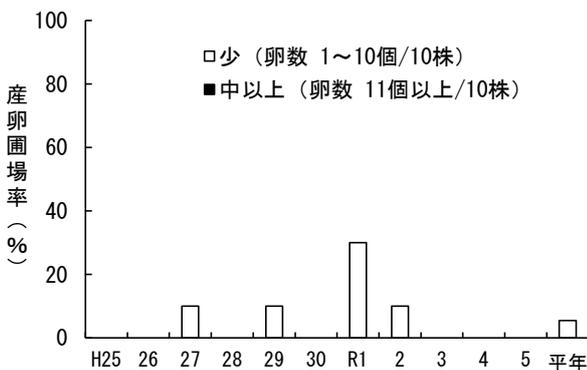


図4 コナガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

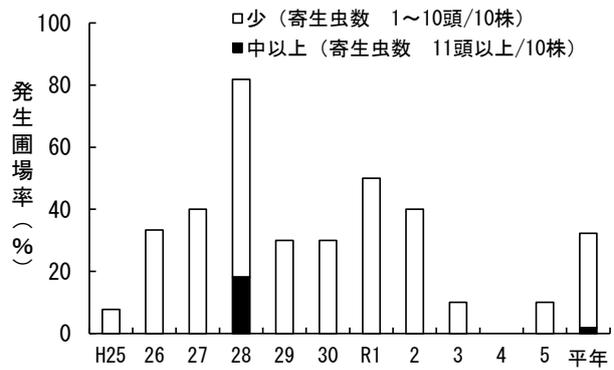


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（9月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、9月第3半旬から第5半旬にかけて誘殺が確認された（図6）。
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺は、9月第3半旬に確認された（図7）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多く推移している（図8）。
- (4) 9月中旬の巡回調査では、産卵は確認されなかった（平年19.1%、図9）。

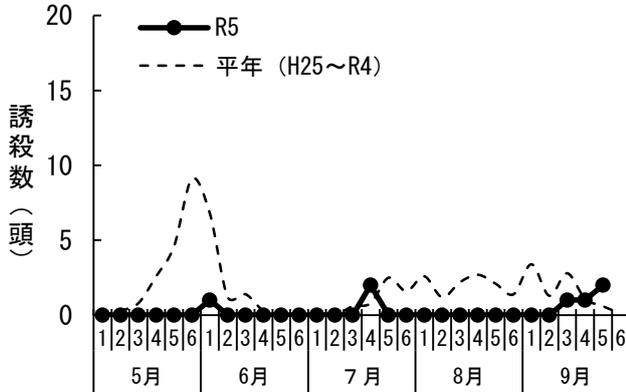


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

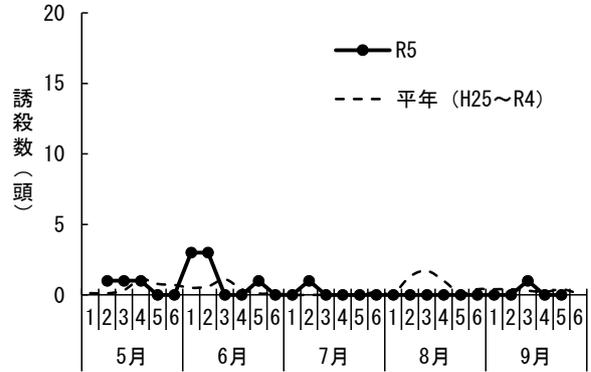


図7 軽米町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

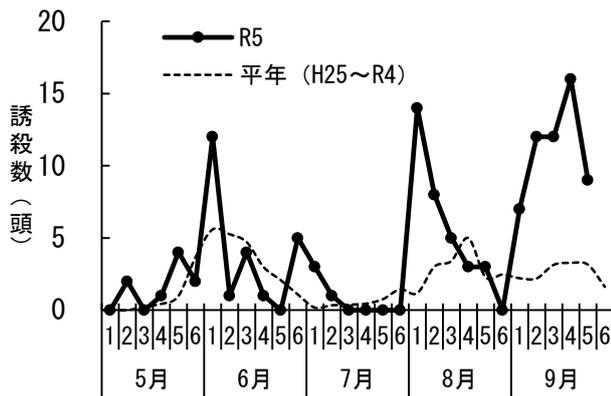


図8 岩手町におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

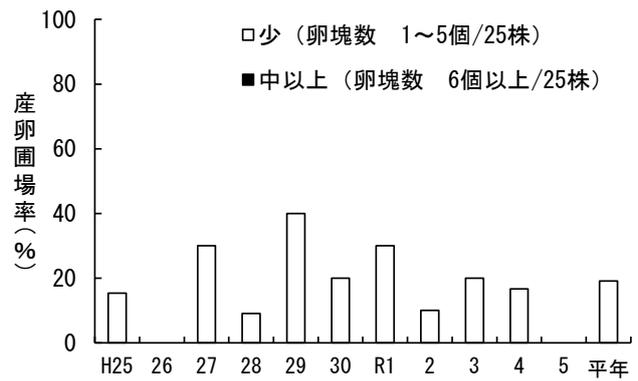


図9 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（9月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（9月） ねぎ編

1 さび病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0%（平年30.6%）であり、平年並だった（図1）。

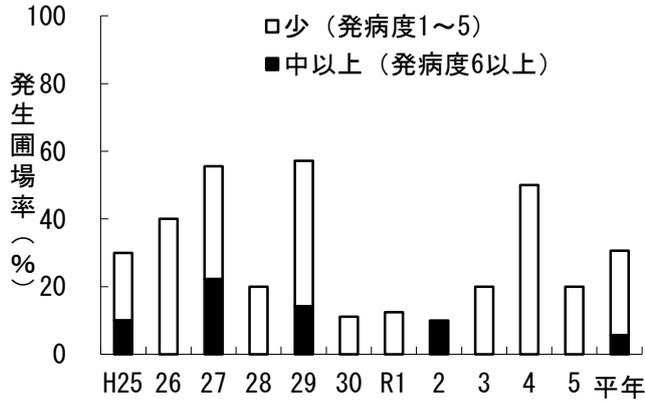


図1 さび病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

2 べと病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年0%、図省略）。

3 黒斑病・葉枯病

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年78.7%）であり、平年並だった（図2）。

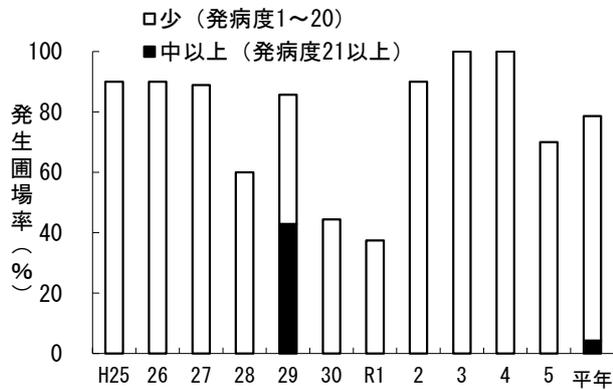


図2 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移（9月上旬）

4 ネギコガ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年38.1%）で、平年より低かった（図3）。

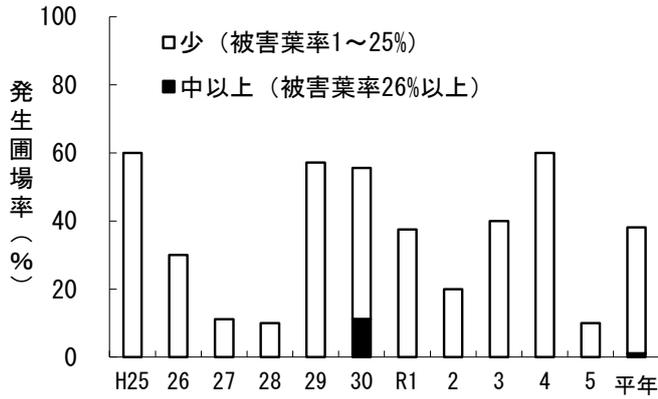


図3 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0%（平年77.4%）で平年より高く、被害度中以上の圃場率は20.0%（平年32.0%）で平年よりやや低かった（図4）。

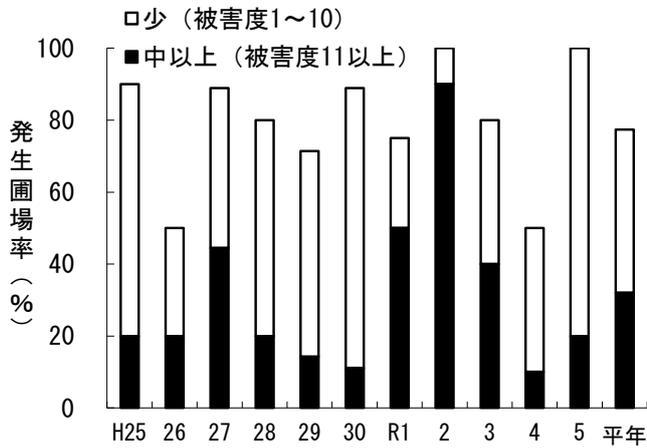


図4 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

6 ネギアザミウマ

(1) 9月上旬の巡回調査では、発生圃場率は80.0%（平年88.9%）で平年よりやや低く、被害度中以上の圃場率は50.0%（平年50.8%）で平年並だった（図5）。

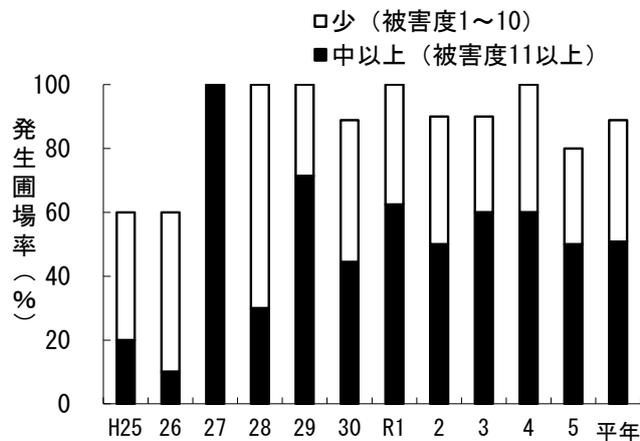


図5 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (9月上旬)

農作物病害虫発生現況情報（9月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 9月中旬の巡回調査での発生圃場率は83.3%（平年24.7%）、採花部での発生圃場率は75.0%（平年8.1%）で、ともに平年より高かった（図1）。

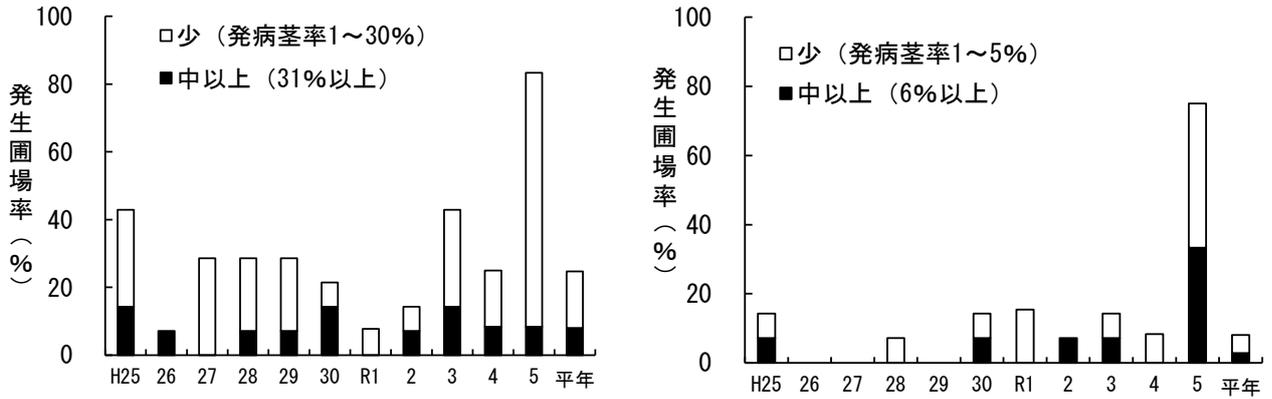


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移（左：発病茎率、右：採花部での発病茎率、9月中旬）

2 褐斑病

(1) 9月中旬の巡回調査での発生圃場率は25.0%（平年8.9%）で、平年より高かった（図2）。

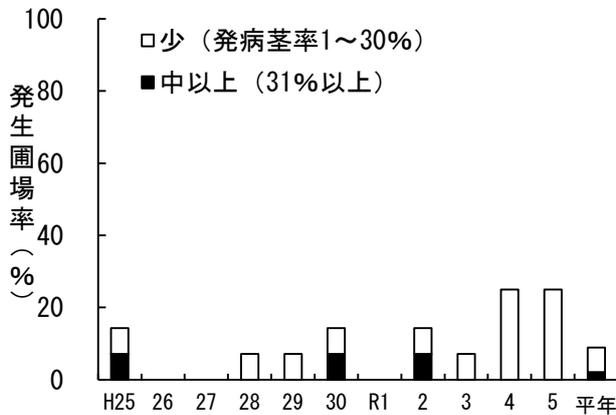


図2 褐斑病の発生圃場率の年次推移（9月中旬）

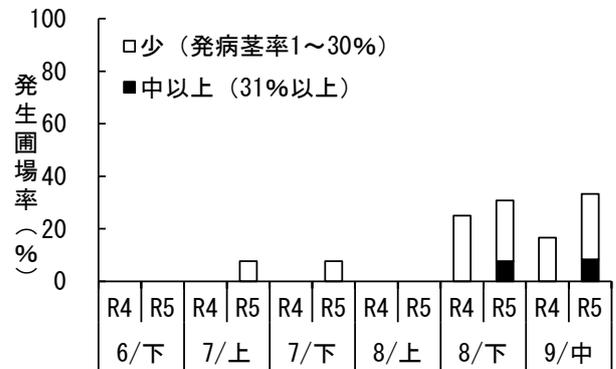


図3 黒斑病の発生圃場率の時期別推移

3 黒斑病

(1) 9月中旬の巡回調査での発生圃場率は33.3%（平年値なし）で、発生程度の高い圃場も確認された（図3）。

4 花腐菌核病

- (1) 9月中旬の巡回調査での発生は確認されなかった（平年5.1%、図4）。
- (2) 9月25日現在、八幡平市安代において子実体は確認されていない。

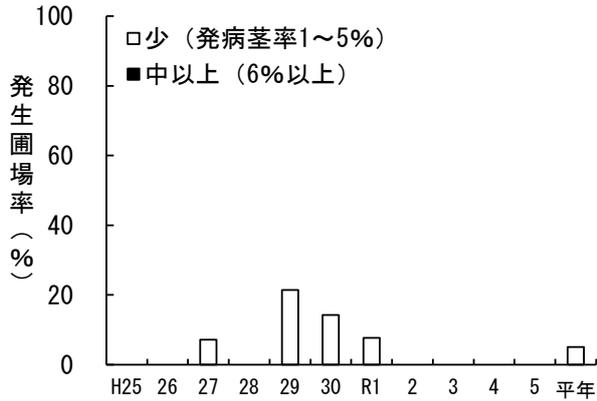


図4 花腐菌核病の発生圃場率の年次推移 (9月中旬)

5 ハダニ類

- (1) 9月中旬の巡回調査での発生圃場率は33.3%（平年27.8%）で平年よりやや高かった（図5）。

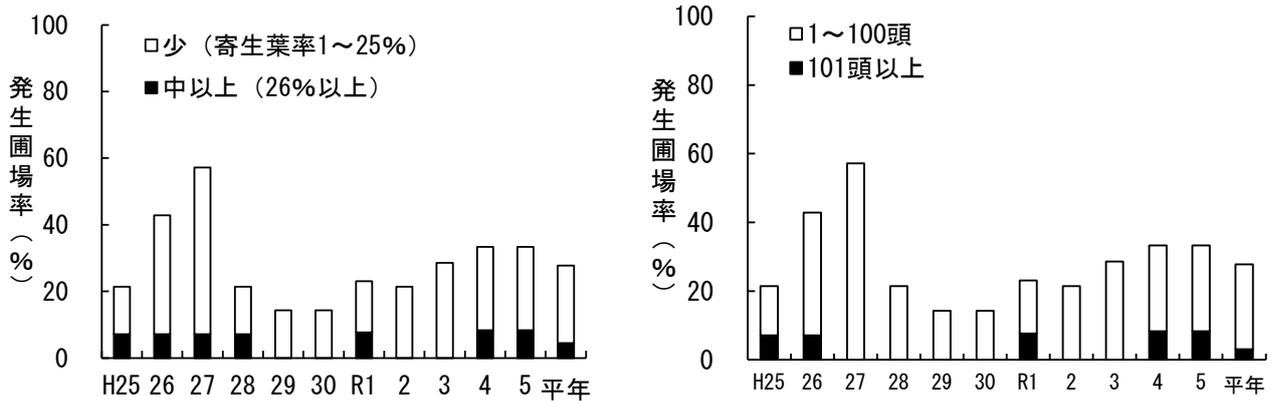


図5 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左: 寄生葉率、右: 寄生虫数/80葉、9月中旬)

6 リンドウホソハマキ

- (1) 9月中旬の巡回調査での潜葉痕の発生圃場率は16.7%（平年40.3%）で、平年より低く、生長部および茎部の被害は確認されなかった（平年16.5%、図6）。

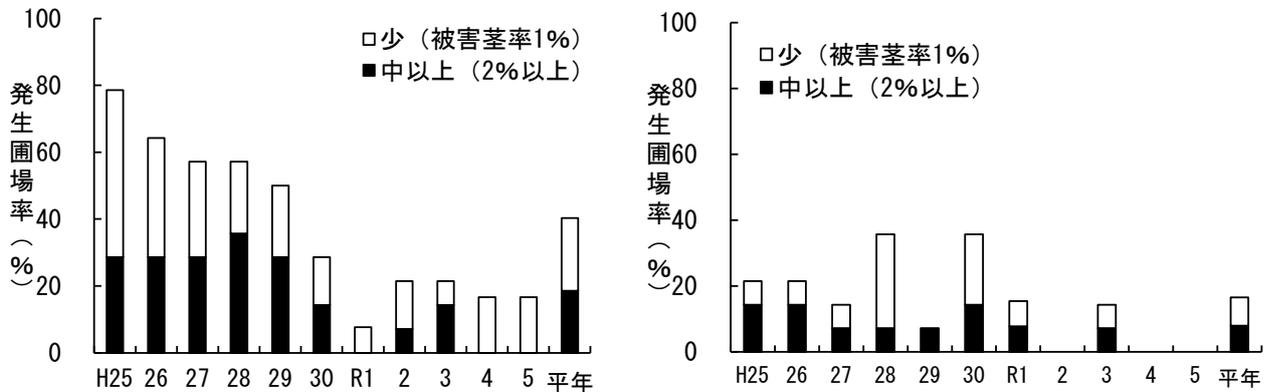


図6 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左: 潜葉痕、右: 生長部・茎部、9月中旬)

7 アザミウマ類

(1) 9月中旬の巡回調査での発生圃場率は30.8% (平年43.8%) で、平年よりやや低かった (図7)。

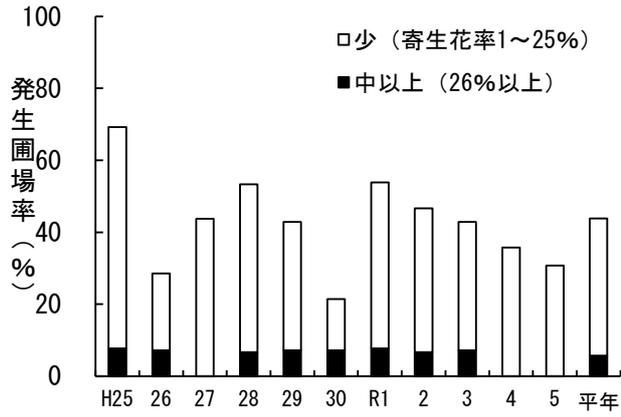


図7 アザミウマ類の発生圃場率の年次推移 (9月中旬)

8 アブラムシ類

(1) 9月中旬の巡回調査での発生は確認されなかった。